



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 285

2020/11/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. ついに決着

02. 美幌町の地質



今月の一枚



Photo

「やっぱりキレイな鳥です」

表紙写真・文／町田善康

一時は絶滅寸前まで数を減らし、全く見ることができなくなっていたタンチョウですが、最近は生息数が増加し、美幌町内でもよく目撃します。その美しさから、ある時は紙幣の絵柄に、またある時は絵巻物の題材に、そして昔話（つるの恩返し）に登場するなど、古来より広く親しまれてきました。誰が見ても感動するのは、この鳥に日本の心が備わっているからかもしれません。

たまたま通りかかった農家のおじさんも、しばし手を止め、見入っていました。そして、「キレイだなー」とつぶやいていました。私もそう思います。

Event. 今月のイベント

特別展「前川貴行の生き物バンザイ！」～11月29日(日)

ロビー展「海がないのはなぜ?びほろの海鳥とオホーツクのアホウドリ」～11月29日(日)

プチ工房「糸かけアート」11月13日(金),14日(土)

博物館講座(歴史編)「北海道の軟石文化～これまでとこれから」11月21日(土)

「特別展 ギャラリートーク」11月29日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房「糸かけアート」

●11/13(金),14(土)①10:00開始,②14:00開始。作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費500円,かなづち,マスク ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-12)。小学3年生以下は保護者の同伴が必要,各回定員12名で締切。

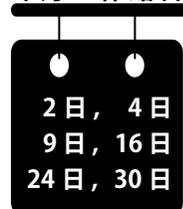
博物館講座(歴史編)「北海道の軟石文化～これまでとこれから」

【講演会】●11/21(土)16:00-17:30 ●町民会館1F小ホール ●マスク ●佐藤俊義氏(札幌軟石ネットワーク) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-20)。小学生以下は保護者の同伴が必要,定員50名で締切。

「特別展 ギャラリートーク」

●11/29(日)①10:00開始,②11:00開始,③14:00開始,④15:00開始,⑤16:00開始。 ●美幌博物館2F特別展示室 ●マスク ●前川貴行氏(動物写真家) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-29)。小学生以下は保護者の同伴が必要,各回定員10名で締切。定員に空きがある場合は、当日でも申し込み可能。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN

グリーンコラム

ついに 決着

写真・文／町田善康



2017年の9月。私は、サハリン南部にエゾホトケドジョウを採集しに来ていました。わずか6日間の滞在でしたが、一日平均3時間ぐらゐの睡眠で魚を取っては分析するという激務をこなし、気が付けば5kg以上も体重が落ちていました。それでも、また行きたいと思うのは、飲みすぎたウォッカのせいなのかもしれません（写真：ウォッカを真剣に選ぶロシア人研究者）。

あれから時を重ねること3年。ようやくサハリンのエゾホトケドジョウについて研究結果をまとめることができました。成果は、日本魚類学会の英文誌に「Morphologies and population genetic structures of the eight-barbel loach of the genus *Lefua* on southern Sakhalin. (サハリン南部に生息するホトケドジョウ属魚類の形態と遺伝的集団構造)」というタイトル

で論文を書きました。この研究によって、サハリン南部に生息するエゾホトケドジョウは、日本から持ち込まれた外来種であることが明らかになりました。それも、石狩川や十勝川などから持ち込まれていたようなのです。また、私たちの研究成果により、サハリン島内に自然分布するエゾホトケドジョウ（またはその近縁種）は、北西部の地域に限られることが明らかになりました。今後、この地域に暮らす魚を調べてみたいと思っています。

しかし、サハリン北西部は、豊かな自然が残された地域です。そのため、この場所での調査は、これまで以上の大冒険になります。道なきツンドラの大地を、戦車のような車で進み、宿泊はテントの中。ヒグマもたくさんいるでしょう。それでも、いつの日か再びサハリンの大地を踏みしめたいです。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

美幌町の 地質

写真・文／八重柏誠



美幌町の地質は、大きく分けて2つに分かれています。そのうちの1つは、網走川の左岸の丘陵地帯で津別層つべつそうと呼ばれる、頁岩けつがんを中心とした地層となっています。

頁岩は泥のような細かな粒子が水中で堆積し、固まった岩石で、薄く剥がれるように割れる特徴を持っています。頁岩のうち硬いものは、その特徴を利用して石器の材料となることがあります。津別層は、約2,500万年前には海底だった場所が隆起して形成されたと考えられています。その証拠に、津別層の頁岩からは、貝などの化石が見られます。先日、高野地区の普段あまり走ることのない林道を車で走っていると、露頭ろとうと呼ばれる岩石が剥き出しになった場所（写真）が現れました。岩石の調査を目的に走っていたのではないのですが、少し足を止めて、岩石のサンプルを採取しました。

石器作りに適した岩石が含まれていないか、化石が豊富に含まれる岩石ではないかといったことを調べるためです。落葉の時期で見通しが良かったこともあり、あちこちに岩石が剥き出しとなった露頭があることに気づきました。また改めて時間を作って出直そうと思います。

さて、網走川右岸側については、屈斜路カルデラからの噴出物（火山灰や軽石）が厚く堆積しています。火口に近い美幌峠ふもとの麓ふるうめなんせきには、古梅軟石ようけつぎようかいがんとも呼ばれる溶結凝灰岩が見られます。美幌町民会館で、11月21日（土）に北海道の軟石文化について学ぶ博物館講座が行われますので、お時間のある方はぜひ足をお運びいただけたらと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



先日、おびひろ動物園に行ってきました。アメリカビーバーの愛称投票をしていたので、「たわし」と「ぶらし」に清き1票を投じました。あのビーバー達は、ユニークな愛称で呼ばれることになるのでしょうか。来年行って確かめてみたいと思います。(八重栢)